

ときを越え
受け継がれるもの

鎮守府八幡宮

水沢区佐倉河字宮ノ内

社伝によれば、蝦夷を平定した坂上田村麻呂が801年に、八幡総本宮である宇佐神宮（大分県）から胆沢城の北東の地に勧請したのが鎮守府八幡宮である。田村麻呂奉納の宝剣と鎬矢が、今も神宝として伝わる。

武神としても知られる八幡大神を祭るこの神社は、源頼義・義家が戦勝祈願するなど多くの武士から崇敬された。源頼朝も日本で2番目の八幡宮であると厚く信仰し、幕府の祈願所としている。江戸時代には仙台藩筆頭の八幡神として伊達氏の厚い保護を受け、洪水の被害を受けた際には伊達政宗の正室愛姫が現在地に社殿を遷座したほか、藩費により度々修復を行っている。武士階級に限らず広く信仰され、1811年の本殿造営の際は仙台城以北の村々からも寄付が集まったという。今も、奉納された絵馬の中には県外からの参拝者のものが見られる。



1 鳥居越しに眺める拝殿。1821年の完成とされ、宮城県にも類例がない珍しい建築の拝殿である。2 棟に千木、堅魚木を載せる総ケヤキ造り（階段、高欄は杉材）の本殿。軒は二軒繫垂木、軒先は全面とも三手先扇垂木の東北地方でもまれな構造。建物の三方は高欄付回廊で囲まれる

広告